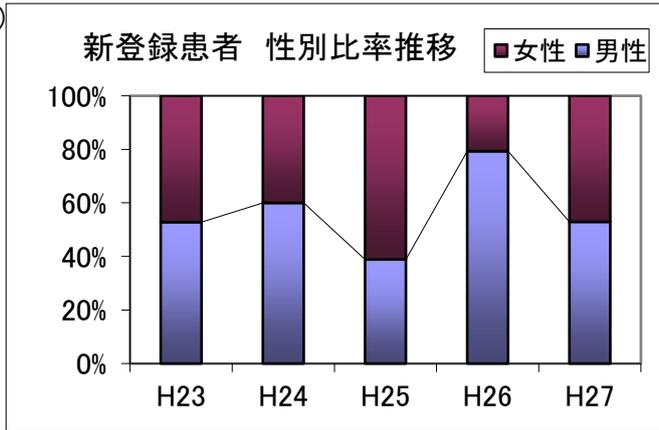


平成27年 結核登録者の状況

1 新登録患者数, 罹患率(表1)

区分	H23	H24	H25	H26	H27
新登録結核患者数	53	50	36	29	34
罹患率(人口10万対)	15.1	14.2	10.3	8.3	9.8
菌喀痰塗沫陽性肺結核患者数	23	19	15	10	15
喀痰塗沫陽性肺結核罹患率	6.5	5.7	4.3	2.9	4.3
65歳以上の新登録患者数	45	40	28	25	29
新登録結核患者数に占める割合	84.9%	80.0%	77.8%	86.2%	85.3%
(別掲)潜在性結核感染症患者数(初感染結核)	14	9	19	14	13

(図1)



(表1より)

平成27年新登録患者数は34名, 潜在性結核感染症患者数は13名であった。新登録患者の85.2%は65歳以上であった。

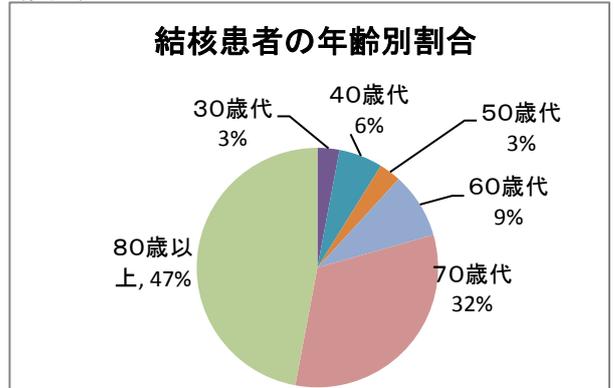
(図1より)

平成27年新登録患者性別比率は男性18名(52.8%), 女性16名(47.2%)と大きな差はなかった。

(表2) 年齢別 結核罹患率

年齢区分	患者数	罹患率
9歳以下	0	-
10歳代	0	-
20歳代	0	-
30歳代	1	2.5
40歳代	2	4.3
50歳代	1	2.3
60歳代	3	5.2
70歳代	11	25.5
80歳以上	16	51.4
計	34	9.8

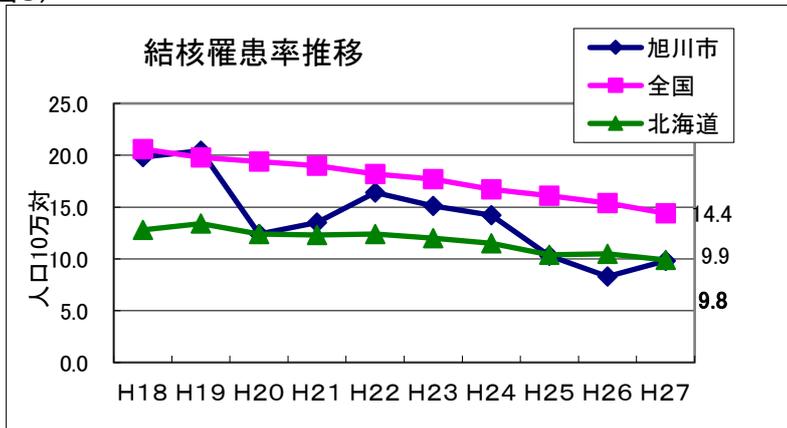
(図2)



(表2)(図2)より

新登録結核患者の年代別に見ると, 70歳代・80歳以上が全体のに占める割合は79%と高くなっている。同様に, 70歳代, 80歳以上については罹患率も高くなっている。

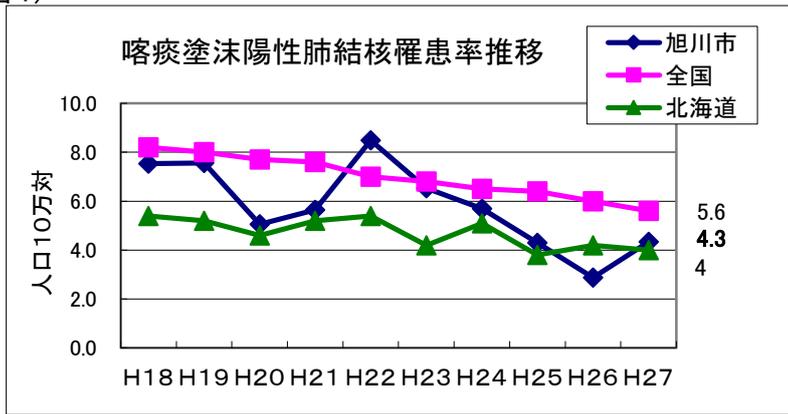
(図3)



(図3より)

結核罹患率は平成22年以降年々減少し, 平成27年は9.8(人口10万対)と, 低まん延とされる結核罹患率10を昨年から下回っている。全国, 北海道と比較しても低い結核罹患率となっている。

(図4)



(図4より)

平成27年喀痰塗沫陽性肺結核罹患率は4.3(人口10万対)で、前年2.9と比べると高値になっているが、経年的に見ると減少傾向である。全国、北海道と比較しても低い状況である。

※喀痰塗沫陽性肺結核: 患者の痰から多量の結核菌が排出されている結核のことであり、周囲の人達への感染源となりやすい

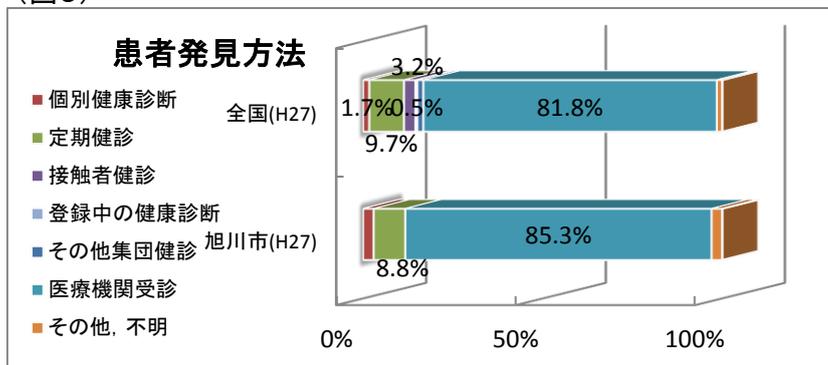
2 結核登録者数, 有病率 (表3)

区分	H23	H24	H25	H26	H27
結核登録者数	128	133	106	85	78
活動性全結核患者数	37	28	27	17	30
有病率(人口10万対)	10.6	8	7.7	4.9	8.7
全国有病率(人口10万対)	13.5	11.7	11	10.6	

(表3より)

平成27年末現在の結核登録数は78人であり、前年より7人減少した。うち、活動性全結核の患者数は30人であり、前年より13人増加したが、経年的に見ると大きな増加は見られない。

3 新登録患者結核病類 (図5)



(図5より)

新登録患者34名の発見方法は医療機関受診が29名(85.3%)と多く、定期健診3名(8.8%)、その他不明が1名(2.9%)であった。

全国より、医療機関受診による発見が多い傾向であった。

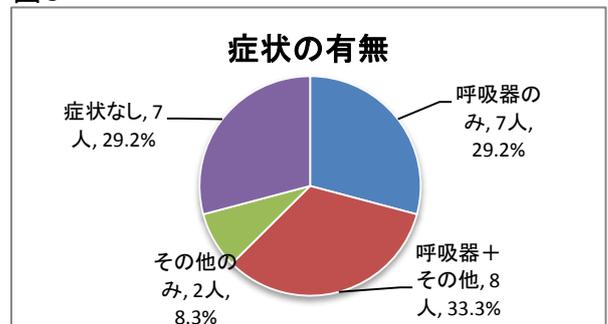
表4 結核患者分類 ※複数診断あり

病名	人数	割合
肺結核	25	67.6%
気管支結核	1	2.7%
結核性胸膜炎	8	21.6%
粟粒結核	1	2.7%
他のリンパ節結核	1	2.7%
腸結核	1	2.7%
合計(延)	37	100.0%

(表4より)

新登録患者34名の内訳は、肺結核25名(67.6%)であった。肺外結核では、結核性胸膜炎8名(21.6%)が多かった。

図6

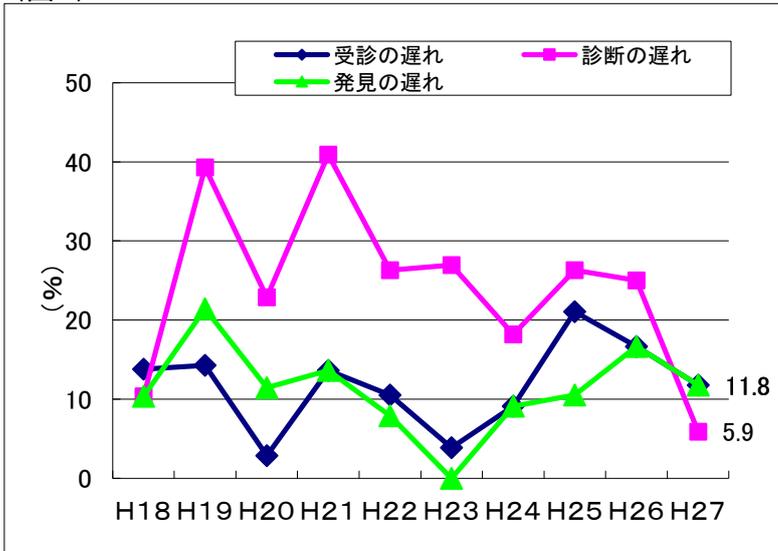


(図6より)

肺結核患者24名(粟粒結核を併発している者は肺外結核患者に分類する)のうち17名は有症状であり、呼吸器症状があったのは15名(62.5%)であった。

4 新登録有症状肺結核患者の発見の遅れ

(図7)



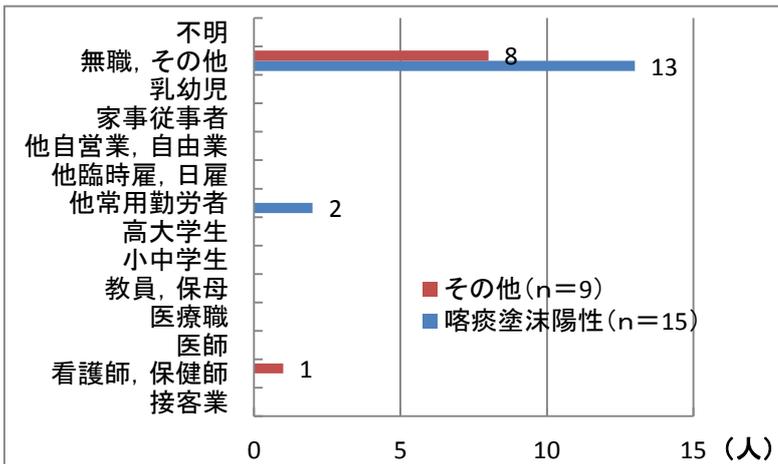
(図7より)

平成27年有症状肺結核患者17名のうち、発病から初診までの期間が2か月以上(受診の遅れ)の者は2名(11.8%), 初診から診断までの期が1か月以上(診断の遅れ)の者は3名(5.9%), 発病から診断までの期間が3か月以上(発見の遅れ)の者は2名(11.8%)であった。

全国と比較すると、受診の遅れ、診断の遅れ、発見の遅れについて、全国よりも低い割合であった。

5 新登録肺結核患者 登録時職業

(図8)

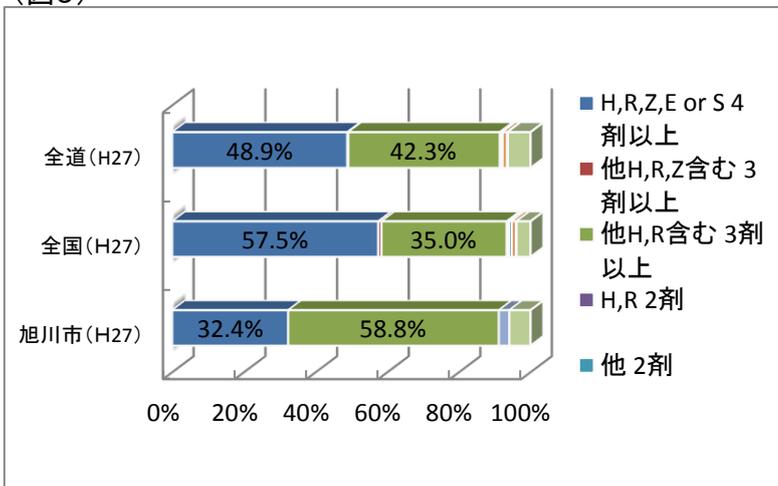


(図8より)

新登録肺結核患者24名の登録時職業は高齢者が多いため無職が13名(56.5%)と多かった。

6 新登録患者化療内容

(図9)



(図9より)

新登録患者34名の化療内容はH,R,Z,E or S4剤以上使用していた者が11名(32.4%)と昨年7.0%から大幅に増加し、他H,R,Z含む3剤以上使用していた者が20名(58.8%)を最も多かった。

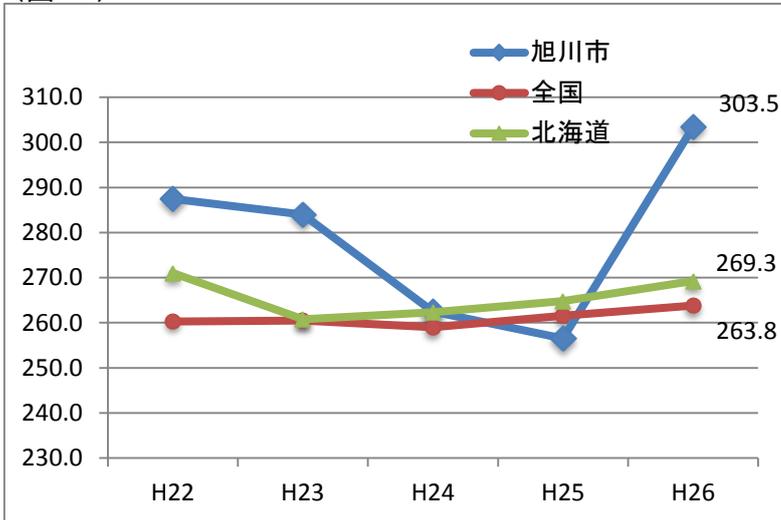
患者が80才以上の割合が高く、PZAを使用できなかったことによると考えられる。

尚、9割以上が標準治療となっている。

7 薬剤感受性試験結果

新登録菌培養陽性肺結核患者は9名のうち2名が薬剤感受性検査を実施しており、1名INH耐性、1名はH,R,S,Eすべてに感受性があった。

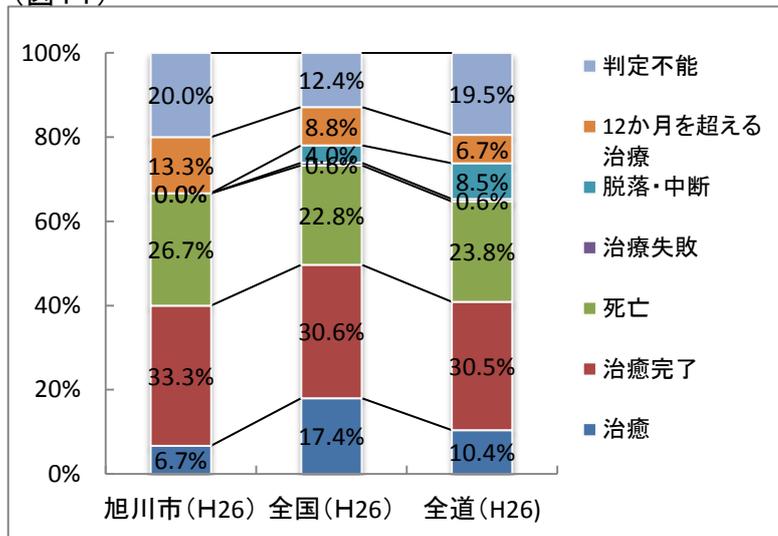
8 平成26年全結核治療完遂継続者治療期間中央値 (図10)



(図10より)

平成26年新登録患者の全結核治療完遂継続者治療期間中央値は303.5日と、前年より長くなっており、全国・全道と比較しても長かった。これは、治療期間が長い多剤耐性結核患者が含まれていたことも影響していると考えられる。

9 平成26年新登録肺結核患者 コホート観察 (図11)



(図11より)

平成26年新登録肺結核患者15名のコホート観察は治癒は1名(6.7%)、治癒完了が5名(33.3%)で、治療成功は4割弱に留まった。死亡が4名(26.1%)のほか、12か月を超える治療が2名(13.3%)、標準治療以外の治療による判定不能が3名(20.0%)であった。また、治療失敗0名、脱落中断者0名で、特定感染症予防指針の目標値である5%以下を満たしていた。